

サンゴ類の生息状況等について

令和4年7月

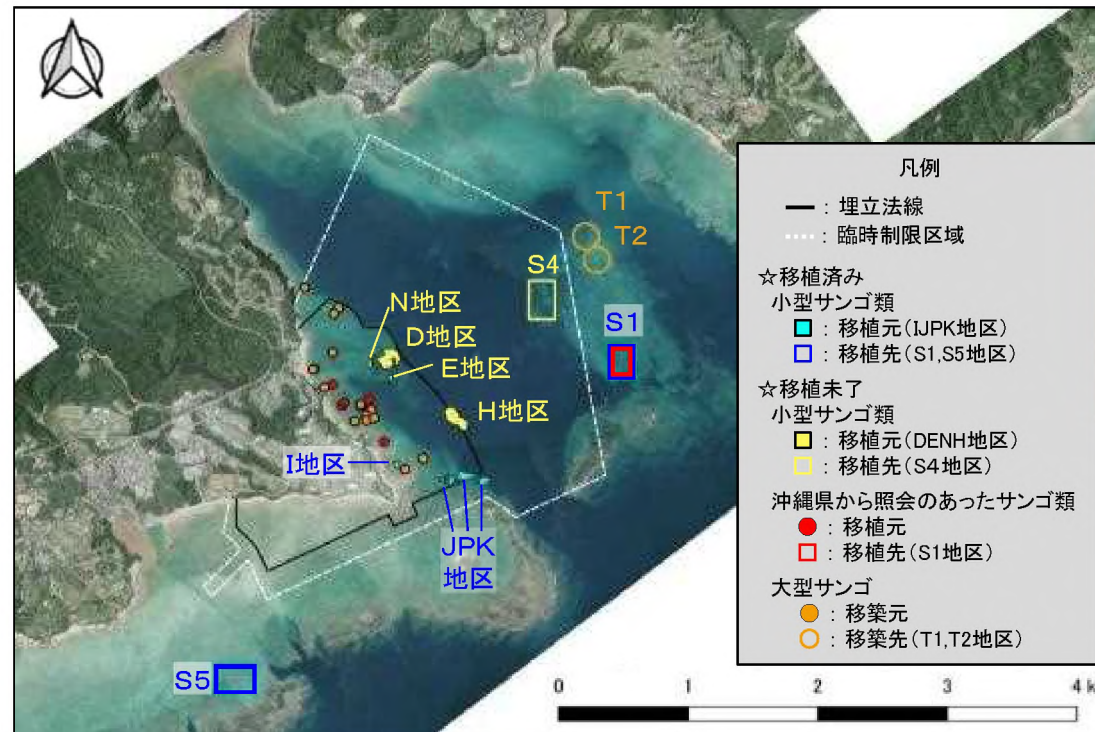
沖縄防衛局

1. サンゴ類の移植・移築に関するこれまでの経緯

サンゴ類の移植・移築※については、サンゴ類の移植・移築技術に関する試験研究として、沖縄県に特別採捕許可を申請し、許可が得られ次第、移植を実施しているところ、小型サンゴ類(IJPK地区)については、令和3年7月28日に特別採捕許可を得て、翌29日から移植作業に着手し、令和4年3月16日に42,688群体の移植を完了した。

一方、小型サンゴ類(DENH地区)、沖縄県から照会のあったサンゴ類及び大型サンゴ類については、第26回環境監視等委員会(令和2年5月開催)の検討結果を踏まえた特別採捕許可申請が令和3年1月22日付で不許可となったため、不許可理由を整理するなどした上で、第33回環境監視等委員会(令和3年8月開催)における検討を踏まえ、再度特別採捕許可を申請したものの、令和4年2月10日付で再度不許可となっている。

今回は、移植サンゴの生息状況等を改めて確認をした上で、再度特別採捕許可を申請し、許可が得られ次第、速やかに移植・移築を実施する。



サンゴ類の移植・移築元及び移植・移築先

※「移植・移築」の定義については「移植」は、長径1m未満の群体を対象にした人力による手法。「移築」は、長径1m以上の群体を対象とした重機を用いた手法。

2. 移植・移築計画の概要

(1) 過去委員会の討議内容

1) 移植・移築先選定方針

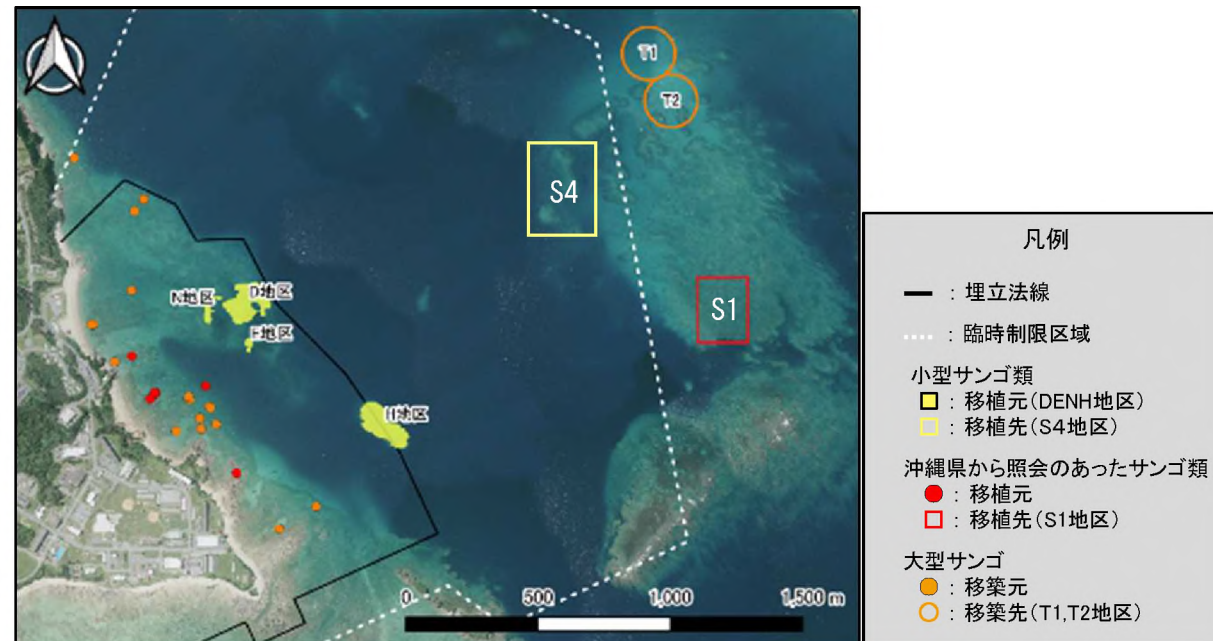
これまでの現地調査結果や沖縄県のサンゴ移植マニュアル等を参考に、環境が類似し、同様なサンゴ種が生息するとともに、移植先のサンゴ群生への影響が少ないと認められる場所を選定（環境保全図書、「サンゴ類の移植・移築計画」等）。

2) 移植・移築先の設定と類似性の詳細確認

移植・移築元と移植・移築先との環境を比較するため、波、潮流、塩分、水深、濁度といった物理的・化学的な環境について長期的・定量的なデータを記録するモニタリングを実施。また、潜水土による定点調査を実施し、目視観察によって、サンゴ類の分布状況、底質状況、食害生物、付着藻類の状況を確認。

これらの情報をとりまとめて比較し、さらに、ハビタットマップにより、サンゴ類の生息環境（地形、生物相、波浪等）を包括的に把握し、その総合的評価により移植・移築元と移植・移築先の環境の類似性を確認。

その結果、第26回及び第33回環境監視等委員会において、小型サンゴ（DENH地区）についてはS4地区、ショウガサンゴについてはS1地区、大型サンゴ類についてはT1・T2地区にそれぞれ移植・移築先を設定。



サンゴ類の移植元及び移植先地点図

(2) 移植・移築元サンゴ類の再確認結果

1) 移植・移築対象群体の確認

移植・移築対象群体の生息状況について、令和4年4月9日から6月4日にかけて現地調査を実施した。

調査の結果、移植対象となる小型サンゴ類(DENH地区)が、約35,350群体から約84,000群体へ増加していたことが確認されたが、優占種の大きな変化はなかった。また、ショウガサンゴ8群体、大型サンゴ類21群体の生息状況に変化は見られなかった(詳細は補足資料参照)。

なお、小型サンゴ類の群体数の増加は、近年、大型台風の直撃による消失や高水温による白化の影響等がなかったため、移植対象(長径10cm以上)に満たない大きさの群体が、順調に成長して移植対象の大きさになったことによるものと考えられる。

小型サンゴ類(DENH地区)、沖縄県から照会のあったサンゴ類、大型サンゴ類の生息確認結果

区分	群体数	面積
小型サンゴ類(DENH地区)	約84,000群体	約4.4ha
沖縄県から照会のあったサンゴ類	8群体	—
大型サンゴ類	21群体	—



小型サンゴ類
(D地区:ハマサンゴ属)



沖縄県から照会のあったサンゴ類
(ショウガサンゴ Sty.2)



大型サンゴ類
(No.6ハマサンゴ属)

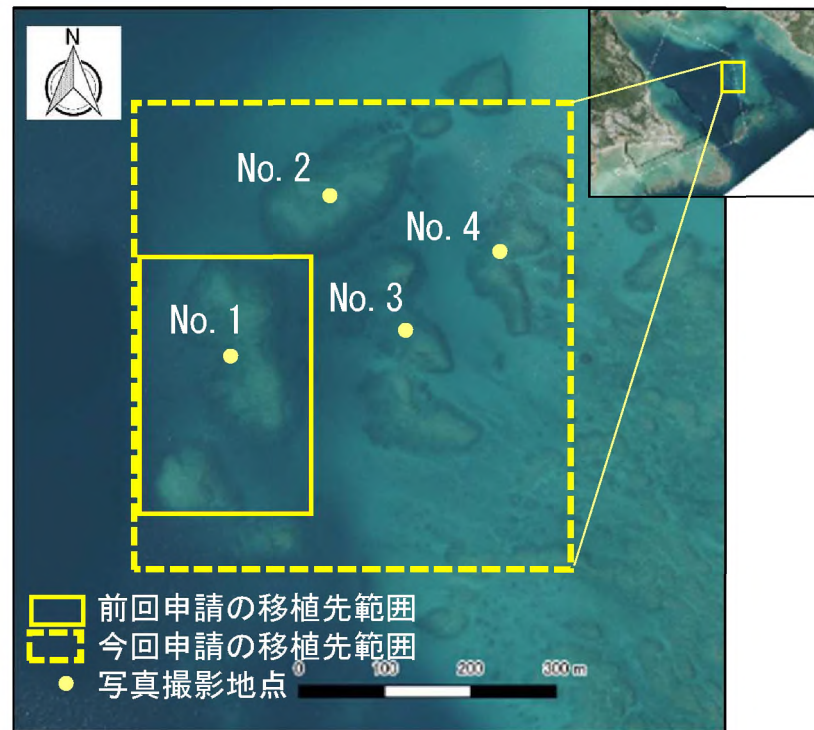
移植・移築対象サンゴ群体の生息確認状況の例

2) 小型サンゴ類の移植先の確認

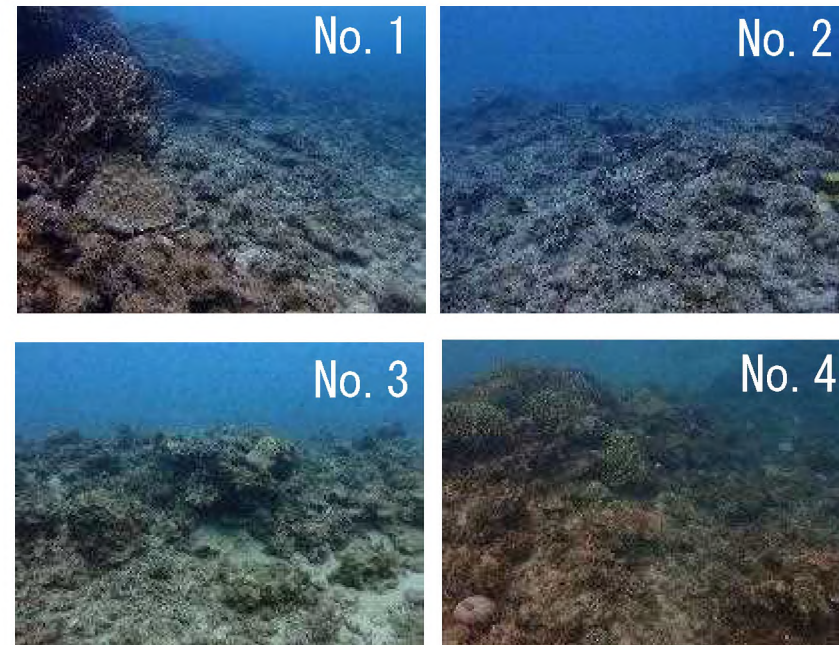
小型サンゴ類の移植対象群体数の増加を踏まえ、S4地区において、移植可能スペースと優占種の確認を行った。

① 移植可能スペース

S4地区において、下記の範囲(黄色破線で囲まれる範囲)には、約3.2haの移植適地(岩盤比率80%以上かつサンゴ類被度25%以下)があることを確認し、約84,000群体の小型サンゴ類の移植が可能なスペースは十分確保できていると考えられる。



移植先S4地区



S4地区 各地点の海底状況

②移植元と移植先の類似性の確認

ア 類似性の確認結果の概要

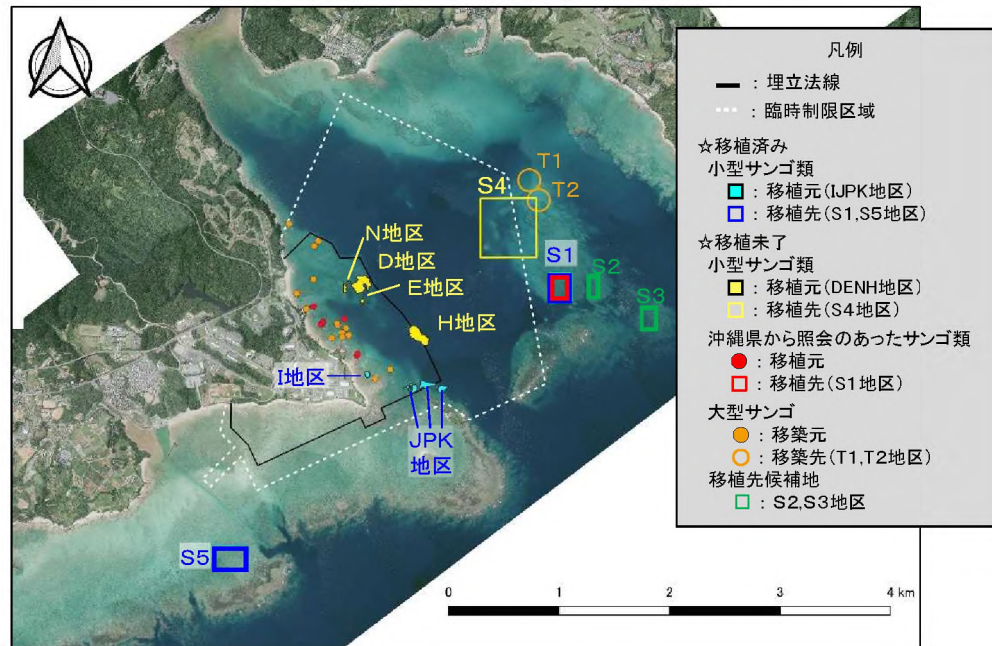
類似性の確認調査は、移植先の候補地であったS1からS5地区のうち、S2地区とS4地区の2地区を対象として行い、S1、S3、S5地区は、以下の理由で対象外とした(第26回環境監視等委員会 資料2-2 P7参照)。

S1地区: JPK地区から約40,000群体の小型サンゴ類を移植したため、移植可能スペースの確保が困難

S3地区: シールズ数(0.2~0.6)が移植元(0.1以下)と差異があること等から移植先としてはS2地区とS4地区に劣る

S5地区: 水深(-2~-3m)が移植元(-3~-10m)と差異があること等から移植先としてはS2地区とS4地区に劣る

S2地区とS4地区を比較した結果、S4地区が、S2地区よりも、DENH地区との類似性が高く、DENH地区の小型サンゴ類の移植先として最も適性があることを確認した(詳細はP7に記載)。



サンゴ類の移植・移築元、移植・移築先および候補地

イ 類似性の確認方法

移植元と移植先の環境の相違を確認するため、波、潮流、塩分、水温、濁度といったハビタットの環境要素のうち、物理的・化学的な環境について長期的・定量的なデータを記録するモニタリングを実施(現地調査員による観測の場合、日中9時、11時、13時、15時の計4回。測器による観測の場合、毎正時。平成29年10月3日より適宜開始)。また、潜水土による定点調査の目視観察から、サンゴ類の分布状況、底質状況、食害生物、付着藻類の状況を確認。

これらの情報から、総合的評価により移植元と移植先(S4地区)の環境要素が同様であることを詳細確認。

ウ 移植元の各地区の環境の類似性

移植元(D、E、N、H各地区)は、最も幅広い環境要素を持つD地区にE、N、H地区の環境が含まれていると判断。以下では判断した理由や環境の評価について示す。

- ・地形:地形は、湾内で岩盤と砂床の混成である。岩盤と砂床の環境を有するD地区やN地区は、砂床のみのE地区や岩盤のみのH地区の環境を含む。なお、E地区は、砂床を主体とするが、サンゴ類の優占種は岩盤に着生するハマサンゴ属、アナサンゴ属、コモンサンゴ属、トゲキクメイシ属が過半数を占め、目視観察でも露出した岩盤に着生する様子も確認されているため、サンゴの生息場としては、主に岩盤であると評価。
- ・水深:水深は、D.L.-3m~-10mの範囲である。どの地区もD地区の水深帯に含まれ、類似していると評価。
- ・生物相:移植元の生物被度は、海藻類被度25%未満、海草類被度5%未満、サンゴ類被度50%未満。海藻類、海草類またはサンゴ類のいずれかが50%を超えて卓越している環境ではないと評価。
- ・サンゴ類の優占種:サンゴ類の共通した優占種は、ハマサンゴ属、アナサンゴ属及びコモンサンゴ属である。各地区とも群体形が塊状もしくは被覆状を主体とし、同様の種組成であると判断。
- ・水質(水温・塩分・濁度):水温及び塩分は、既往文献*の成育可能範囲内で変化し、概ね同様と評価。濁度は、H地区において一時的に値が上昇するものの、最頻値により、他の地区とほぼ同様と評価。
- ・波当たり:各地区とも「静穏~0.5m程度」。底面流速の最頻値が「0.7~1.7cm/sec」、シールズ数が「0.1以下」であり同様と評価。なお、H地区の底面流速で133.4cm/secと大きい値が確認されているが、このような流速を成育に必要とする種は知られておらず、生息しているサンゴ類も他の地区と同様であるため、全体として同様と評価できる。

* 海の自然再生ハンドブック(海の自然再生ワーキンググループ, 平成15年)

エ 移植元とS2地区、S4地区との類似性

各移植元のハビタットの要素として移植元の各地区の環境を共通して有するD地区と、移植先候補のS2地区、S4地区を改めて比較し、以下に示した判断理由や評価のとおり、S4地区がS2地区よりも移植元との類似性が高く最適であることを確認(P8には移植元とS4地区の比較を整理)。

- ・地形: 移植元の地形は、岩盤と砂床の混成環境であり、S4地区は同様の地形を有するが、S2地区は礁斜面(陸側)である。
- ・水深: 移植元はD.L.-3~-10mの水深帯で、S2地区、S4地区には、いずれも共通の水深帯がある。
- ・生物相: S2地区、S4地区の生物被度は、いずれも、移植元と同様に、海藻類、海草類またはサンゴ類のいずれかが50%を超えて卓越している環境ではなく、移植元と同様の環境を有すると評価。
- ・サンゴ類の優占種: 移植元は、ハマサンゴ属、アナサンゴ属及びコモンサンゴ属が優占している。移植元とS2地区、S4地区に生息するサンゴ類の優占種上位5属を比較すると、移植元とS4地区は3属(ハマサンゴ属、コモンサンゴ属、アナサンゴ属)が共通しているのに対し、S2地区は2属(ハマサンゴ属、コモンサンゴ属)にとどまっており、優占種については、S4地区がS2地区より類似性が高い。
- ・水質(水温・塩分・濁度): 水温と塩分に関しては、S2地区、S4地区はいずれも成育可能範囲内*であり移植先として良好と判断。濁度に関しては、最頻値をみると移植元が0.2~0.3FTUに対し、S2地区、S4地区はいずれも0.2FTUであるため、ほぼ同様と判断。
- ・波当たり: 移植元は「静穏~0.5m程度」、底面流速の最頻値が「0.7~1.7cm/sec」、シールズ数が「0.1以下」。S2、S4地区で、波当たり及びシールズ数が移植元と共通した環境を含み、底面流速に関しては、流速の最頻値が1.9cm/secであり、ほぼ同様と判断。
- ・その他: 移植先において、食害生物の出現、付着藻類の被覆、大規模白化、感染性の高い病気は確認されておらず、移植可能スペースも十分にあり、これらの環境要素等について移植先として適していると判断。

これまでの調査によると、移植対象のサンゴ類には16科60属(D、E、N、H地区内は15科52属)と多様な種類が含まれるが、大浦湾のみに生息する種類のサンゴ類は確認されておらず、生息環境は元々多岐にわたっているところ、上記のとおり、優占種の構成を含む移植元・移植先(S4地区)の環境の類似性が確保されていることから、各サンゴ類について適応範囲内における移植であると判断。

また、現在の知見に照らし、移植先(S4地区)の環境が不適とされるサンゴ類は存在しない。

※ 海の自然再生ハンドブック(海の自然再生ワーキンググループ, 平成15年)

移植元と移植先の環境要素の比較一覧

区分		移植元				移植先
		D地区	E地区	N地区	H地区	S4地区
海域		埋立区域(大浦湾)				中干瀬(大浦湾)
群体数 ^{※1}		約13,000群体	約300群体	約3,400群体	約67,300群体	約244,100群体
サンゴ礁地形 ^{※2} /底質		湾内(岩盤・砂床) /岩盤・砂	湾内(砂床) /礫・砂	湾内(岩盤・砂床) /岩盤・礫	湾内(岩盤) /岩盤	湾内(岩盤・砂床) /岩盤・礫
水深(D.L.)		-3~-10m	-7~-10m	-3~-7m	-5~-10m	-5~-20m
種別生息状況	海藻類被度 海草類被度 サンゴ類被度	25%未満 5%未満 50%未満1)	5%未満 5%未満 5%未満	5%未満 5%未満 5%未満	5%未満 5%未満 50%未満	25%未満 5%未満 50%未満
	サンゴ類 優占種(上位5属)	ハマサンゴ属 アナサンゴ属 コモンサンゴ属 トゲキクメイシ属 キクメイシ属	ハマサンゴ属 アナサンゴ属 コモンサンゴ属 トゲキクメイシ属 クサビライシ属	ハマサンゴ属 コモンサンゴ属 アナサンゴ属 キクメイシ属 トゲキクメイシ属	ハマサンゴ属 キクメイシ属 コモンサンゴ属 アナサンゴ属 ミドリイシ属	ハマサンゴ属 コモンサンゴ属 アナサンゴ属 キクメイシ属 トゲキクメイシ属
水質	水温 ^{※3,4}	20.2~30.8°C (mode: 23.0°C)			20.3~33.3°C (mode: 22.8°C)	20.2~30.9°C (mode: 23.1°C)
	塩分 ^{※3,4}	33.3~34.9psu (mode: 34.7psu)			31.6~34.9psu (mode: 34.4psu)	32.5~34.9psu (mode: 34.6psu)
	濁度 ^{※3,4}	0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU)			0.0~80.0FTU以上 (mode: 0.2FTU)	0.0~35.7FTU (mode: 0.2FTU)
波当たり ・流れの状況	波当たり ^{※5}	静穏~0.5m程度	静穏~0.5m程度	静穏~0.5m程度	静穏~0.5m程度	静穏~0.5m程度
	底面流速 ^{※3,4} シールズ数 ^{※2,6}	0.1以下	0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec)	0.1以下	0.0~133.4cm/sec (mode: 1.7cm/sec)	0.1以下
食害生物	確認なし	確認なし	確認なし	確認なし	確認なし	
付着藻類	確認なし	確認なし	確認なし	確認なし	確認なし	
移植可能スペース ^{※7}	—	—	—	—	約3.2ha	
備考	1) 高被度は、ユビエダハマサンゴ群落を評価したもの	サンゴ類は、主に礫や砂より露出した岩盤の上に着生			ユビエダハマサンゴの群落あり。	

※1 移植元は移植対象サンゴの群体数、移植先は移植先に生息する長径10cm以上の群体数を示す。

※2 ハビタットマップより抽出。

※3 データ整理期間(平成29年12月10日~令和4年4月25日)

※4 海底面上1mにおける観測

※5 通常時の目視観測結果

※6 環境保全図書記載の現況地形高波浪時(沖波波高2.6m)の値

※7 移植可能スペース=令和4年度実施の調査結果から岩盤比率80%以上かつサンゴ類被度25%以下の面積

(4) 事後調査について

事後調査については、以下のとおり、既に移植が完了しモニタリング調査を実施している小型サンゴ類(IJPK地区)と同様の手法を基本とする(下線部分は、第33回環境監視等委員会資料からの更新箇所を示す)。

1) 移植・移築後のモニタリング調査の内容

モニタリング調査の内容

調査項目	調査内容	小型サンゴ類		大型サンゴ類	
		全体枠 (5m枠)	詳細枠 (2m枠)	移築 群体	周辺枠 (5m枠)
生息環境 の把握	・物理的・化学的環境:底質・水温・塩分・濁度・流速	●※1			●※1
	・生物的環境:サンゴ類、海藻類、海草類の被度	●			●※2
サンゴ群集の 成育状況	・サンゴの生残・死亡・消失の群体数とその状況 (食害、白化、折損、消失等)	●		●	
	・サンゴの成長状況 (群体ごとに計測)		●	●	
	・サンゴの食害生物 (オニヒトデ、レイシガイダマシ類等)	●		●	
	・サンゴの病気、腫瘍、藻類等の発生状況	●		●	
生物生息状況	・生物謂集状況(魚類、大型底生生物)	●		●	
サンゴの再生産	・放卵放精や幼生放出等の生殖行動の有無	●		●	

※1 全体枠及び周辺枠を用いた記録は底質のみ。その他の項目は近傍の定点観測結果を使用。

※2 サンゴ類に関しては、周辺のサンゴの生残・死亡状況についても確認。

2) 移植・移築後のモニタリング調査の期間及び頻度

調査は下表のとおり実施する。移植・移築期間が長期にわたる場合は、移植・移築時期を3ヶ月ごとに区分し、各時期にモニタリング対象群体の移植、移植・移築後モニタリングを実施する。

モニタリング調査の期間及び頻度

調査期間	調査頻度
移植・移築後1年目	直後※1 概ね3ヶ月毎 (約1、3、6、9、12ヶ月後)
2年目～5年目	1回/年
6年目～10年目	隔年(1年間隔)
供用後	供用後3～5年程度行い、成育状況が安定したことを確認した後に終了する。

※1 移植・移築直後から移植・移築後1ヶ月までの間は概ね週1回の頻度で固定状況や大規模な食害・病気の発生の有無等を確認する。

※2 突発的な環境変化(大規模白化等)が確認された場合は、上記調査頻度に限らず実施する。

※3 生物生息状況については、移植・移築前の比較状況として移植・移築先の移植・移築前の調査を実施する。

3) 評価基準

移植・移築を実施したサンゴ類、移植・移築先に元々生息していたサンゴ類及び周辺環境のモニタリング調査を行い、下記の目標達成基準と照らした上で、移植・移築したサンゴ類が移植・移築先に元々生息していたサンゴ類と同様に生息しており移植・移築先の環境に順応しているかとの観点から、移植・移築の成果及び妥当性について評価を行う。

目標達成基準

指標項目	基準
サンゴ群集の成育状況 (総被度、種類名)	移植・移築したサンゴ群集の総被度、種類数が、移植・移築直後の状況に比べて著しく減少していないか。
生物生息状況 (魚類・大型底生生物の種類別個体数)	移植・移築したサンゴ群集に集まる魚類・大型底生生物の種類数、個体数が、事前調査で調査した移植・移築前(移植・移築元)の状況に比べて著しく減少していないか。
サンゴの再生産 (生殖行動の有無など)	移植・移築したサンゴ群集について、放卵放精や幼生放出等の生殖行動がみられるか。

《補足資料》

移植・移築対象サンゴ類別の移植元・移植先の状況

表1 移植元と移植先の比較

項目	移植元(大浦湾) D地区	移植元(大浦湾) E地区	移植元(大浦湾) N地区	移植元(大浦湾) H地区
群体数	小型サンゴ 約 13,000群体	小型サンゴ 約 300群体	小型サンゴ 約 3,400群体	小型サンゴ 約 67,300群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤・砂床)/岩盤・砂 D.L. -3 ~ -10m程度	湾内(砂床)/礫・砂 D.L. -7 ~ -10m程度	湾内(岩盤・砂床)/岩盤・礫 D.L. -3 ~ -7m程度	湾内(岩盤)/岩盤 D.L. -5 ~ -10m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は50%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、アナサンゴ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 25%未満 海草類被度は 5%未満	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、アナサンゴ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモンサンゴ属、アナサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満	サンゴ類被度は50%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、キクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所				
水質	水温:20.2~30.8°C 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0°C) (mode: 34.7psu) (観測日:平成31年1月23日~令和4年4月25日)			水温:20.3~33.3°C 塩分:31.6~34.9psu (mode: 22.8°C) (mode: 34.4psu) (観測日:平成29年12月10日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、碎波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年4月9日)	・通常時は静穏~0.5m程度であり、碎波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年4月14日)	・通常時は静穏~0.5m程度であり、碎波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年4月13日)	・通常時は静穏~0.5m程度であり、碎波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.2m(観測日:令和4年4月11日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成31年1月23日~令和4年4月25日)			・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m): 0.0~133.4cm/sec (mode: 1.7cm/sec) (観測日:平成29年12月10日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	確認なし	確認なし	確認なし
付着藻類	確認なし	確認なし	確認なし	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日:平成31年1月23日~令和4年4月25日)			濁度:0.0~80.0FTU以上 (mode: 0.2FTU) (観測日:平成31年1月23日~令和4年4月25日)
備考				

表2 移植元と移植先の比較

項目	移植先(中干瀬) S4地区
群体数	小型サンゴ 約 244,100群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤・砂床)/岩盤・礫 D.L. -5 ~ -20m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は50%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモンサンゴ属、アナサンゴ属 海藻類被度は 25%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所	
水質	水温: 20.2~30.9℃ 塩分: 32.5~34.9psu (mode: 23.1℃) (mode: 34.6psu) (観測日:平成29年12月10日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高: 0.2m(観測日:令和4年5月23日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m): 0.0~83.4cm/sec (mode: 1.9cm/sec) (観測日:平成29年12月10日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし
濁度	濁度: 0.0~35.7FTU (mode: 0.2FTU) (観測日:平成29年12月10日~令和4年4月25日)
備考	ユビエダハマサンゴの群落あり。 クサビライシ属やミドリイシ属の生息を確認。

表3 移植元と移植先の比較

項目	移植元(大浦湾) シヨウガサンゴ	項目	移植先(中干瀬) S1地区
群体数	シヨウガサンゴ8群体(Sty.2~9)	群体数	小型サンゴ 約 116,100群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤・砂床・泥地)/岩盤 D.L. -0.5 ~ -10m程度	地形/底質 水深	礁斜面(陸側)/岩盤 D.L. -2 ~ -15m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はコモンサンゴ属、トゲキクメイシ属、ハマサンゴ属 海藻類被度は 50%未満 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は50%未満であり、主な出現種はコモンサンゴ属、ハマサンゴ属、トゲキクメイシ属 海藻類被度は 75%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	水質	水温:20.1~31.2℃ 塩分:32.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成29年10月5日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月18日)	波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.2m(観測日:令和4年4月28日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~64.7cm/sec (mode: 1.1cm/sec) (観測日:平成29年10月5日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.0~6.2FTU (mode: 0.2FTU) (観測日:平成29年10月5日~令和4年4月25日)
備考	全ての群体は、露出した岩盤に着生	備考	シヨウガサンゴの生息を確認

表4 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ①	項目	移築元 大型サンゴ②
群体数	ハマサンゴ属1群体	群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／岩盤・砂礫 D.L. -3m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／岩盤・砂礫 D.L. -4m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、アナサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月20日)	波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月20日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考		備考	

表5 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ③	項目	移築元 大型サンゴ④
群体系数	ハマサンゴ属1群体系	群体系数	ハマサンゴ属1群体系
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -4m程度	地形/底質 水深	礁地(主に砂床)／砂礫・岩盤 D.L. -1m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、アナサンゴモドキ属、トゲキクメイシ属 海藻類被度は 5～25% 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	水質	水温:19.0～31.4℃ 塩分:32.0～35.0psu (mode: 25.4℃) (mode: 34.6psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月20日)	波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月19日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～27.1cm/sec (mode: 0.8cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1～78.7FTU (mode: 0.3FTU) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
備考		備考	

表6 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑤	項目	移築元 大型サンゴ⑥
群体系数	ハマサンゴ属1群体系	群体系数	ハマサンゴ属1群体系
地形/底質 水深	湾内(砂床)／砂礫 D.L. -4m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -2m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、マルキクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモンサンゴ属、トゲキクメイシ属 海藻類被度は 5～25% 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月23日)	波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月23日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)
備考	H26年調査時の岩盤から脱落している状況を確認。	備考	

表7 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑦	項目	移築元 大型サンゴ⑧
群体数	ハマサンゴ属1群体	群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -2m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -2m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属 海藻類被度は 5～25% 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモンサンゴ属、トゲキクメイシ属 海藻類被度は 5～25% 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月23日)	波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月23日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)
備考		備考	


表8 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑨	項目	移築元 大型サンゴ⑩
群体数	ハマサンゴ属1群体	群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -2m程度	地形/底質 水深	湾内(砂床)／砂礫・岩盤 D.L. -1m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、キクメイシ属、マルキクメイシ属 海藻類被度は 5~25% 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月23日)	波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月23日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考		備考	

表9 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑬	項目	移築元 大型サンゴ⑭
群体系数	ハマサンゴ属1群体系	群体系数	ハマサンゴ属1群体系
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -6m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -6m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、キクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月18日)	波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月18日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考		備考	

表10 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ ^⑮
群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂・岩盤 D.L. -5m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモンサンゴ属、ミドリイシ属 海藻類被度は 5~25% 海草類被度は 5%未満
生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月19日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考	一部転倒


項目	移築元 大型サンゴ ^⑯
群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -5m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はコモンサンゴ属、ハマサンゴ属、ミドリイシ属 海藻類被度は 5~25% 海草類被度は 5%未満
生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月19日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考	

表11 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑰	項目	移築元 大型サンゴ⑱
群体系数	ハマサンゴ属1群体系	群体系数	ハマサンゴ属1群体系
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -2m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂・岩盤 D.L. -2m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 25～50% 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5%未満 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月19日)	波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月19日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)
備考		備考	

表12 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑱	項目	移築元 大型サンゴ⑳
群体数	ハマサンゴ属1群体	群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -3m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -4m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はコモンサンゴ属、ハマサンゴ属、トゲキクメイシ属 海藻類被度は 5~25% 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、アナサンゴモドキ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5~25% 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	水質	水温:20.2~30.8℃ 塩分:33.3~34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月18日)	波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月18日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0~14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1~13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考		備考	

表13 移築元と移築先の比較

項目	移築元 大型サンゴ⑳	項目	移築元 大型サンゴ㉑
群体数	ハマサンゴ属1群体	群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫・岩盤 D.L. -4m程度	地形/底質 水深	湾内(岩盤)／砂礫 D.L. -5m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5～25% 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はハマサンゴ属、アナサンゴ属、コモンサンゴ属 海藻類被度は 5～25% 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	水質	水温:20.2～30.8℃ 塩分:33.3～34.9psu (mode: 23.0℃) (mode: 34.7psu) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月18日)	波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高:0.1m(観測日:令和4年5月20日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m):0.0～14.7cm/sec (mode: 0.7cm/sec) (観測日:平成30年1月6日～令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)	濁度	濁度:0.1～13.5FTU (mode: 0.3FTU) (観測日平成30年1月6日～令和4年4月25日)
備考		備考	

表14 移築元と移築先の比較



項目	移築元 大型サンゴ㉓
群体数	ハマサンゴ属1群体
地形/底質 水深	礁斜面(陸側)/砂礫・岩盤 D.L. -5m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%未満であり、主な出現種はコモンサンゴ属、ハマサンゴ属、ミドリイシ属 海藻類被度は 25~50% 海草類被度は 5%未満
生息場所	
水質	水温: 19.1~31.4°C 塩分: 32.0~35.0psu (mode: 25.4°C) (mode: 34.6psu) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏~0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高: 0.1m(観測日:令和4年5月20日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m): 0.0~27.1cm/sec (mode: 0.8cm/sec) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし
濁度	濁度: 0.1~78.7FTU (mode: 0.3FTU) (観測日:平成30年1月6日~令和4年4月25日)
備考	

表15 移築元と移築先の比較

項目	移築先(中干瀬) T1地区	項目	移築先(中干瀬) T2地区
群体数	約2,300群体	群体数	約2,300群体
地形/底質 水深	湾内(砂床)／岩盤・砂 D.L. -8m程度	地形/底質 水深	湾内(砂床・岩盤)／岩盤・砂 D.L. -9m程度
種別生息状況	サンゴ類被度は5%～25%であり、主な出現種はハマサンゴ属、アナサンゴ属、キクメイシ属 海藻類被度は 5%～25% 海草類被度は 5%未満	種別生息状況	サンゴ類被度は5%～25%であり、主な出現種はハマサンゴ属、ミドリイシ属、アナサンゴ属 海藻類被度は 5%～25% 海草類被度は 5%未満
生息場所		生息場所	
水質	水温: 20.2～30.9°C 塩分: 32.5～34.9psu (mode: 23.1°C) (mode: 34.6psu) (観測日:平成29年12月10日～令和4年4月25日)	水質	水温: 20.2～30.9°C 塩分: 32.5～34.9psu (mode: 23.1°C) (mode: 34.6psu) (観測日:平成29年12月10日～令和4年4月25日)
波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高: 0.2m(観測日:令和4年5月24日)	波当たり	・通常時は静穏～0.5m程度であり、 砕波するような波当たりが強い状況は確認されていない ・波高: 0.2m(観測日:令和4年5月24日)
流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m): 0.0～83.4cm/sec (mode: 1.9cm/sec) (観測日:平成29年12月10日～令和4年4月25日)	流れの状況	・通常時は、弱い流れを感じる程度 ・底面流速(海底面上1m): 0.0～83.4cm/sec (mode: 1.9cm/sec) (観測日:平成29年12月10日～令和4年4月25日)
食害生物	確認なし	食害生物	確認なし
付着藻類	確認なし	付着藻類	確認なし
濁度	濁度: 0.0～35.7FTU (mode: 0.2FTU) (観測日:平成29年12月10日～令和4年4月25日)	濁度	濁度: 0.0～35.7FTU (mode: 0.2FTU) (観測日:平成29年12月10日～令和4年4月25日)
備考	群体数は概算値 移築元の水深が-1～-3mの10群体 対象サンゴ: ①、④、⑥、⑦、⑧、⑨、⑪、⑰、⑱、⑲	備考	群体数は概算値 移築元の水深が-4～-6mの11群体 対象サンゴ: ②、③、⑤、⑬、⑭、⑮、⑯、⑳、㉑、㉒、㉓